

課題 番号	試験研究課題名 及び実施研究機関	実施 期間	研究概要	評価所見	総 括 評 価	評価結果に基 づく対応措置 (研究計画の変 更、中止等)
20320466	<i>Tomato brown rugose fruit virus</i> の多検体診断技術及び防除技術の開発 【実施研究機関】 (国研)農業・食品産業技術総合研究機構	R2～ R4	(背景・目的) <i>Tomato brown rugose fruit virus</i> (ToBRFV)は、トマトの重要病原体であり、海外で発生事例が相次いでいる。国内では未発生であるため、その国内侵入を未然に防止する、また、万一発生した場合の被害を最小減に食い止めるための技術が求められている。しかし、そのために必要なウイルスの生態の解明、および検出・診断技術、防除技術は極めて不十分であり、これらに関する研究開発を迅速に実施する必要がある。 このため、本研究では、 1. 宿主範囲等生物学的基礎情報の収集 2. ToBRFV の防除技術の開発 3. ToBRFV の検出技術の開発 により、 ・宿主範囲、病徴進展の様相、種子伝染リスクおよびそのメカニズムを解明 ・汚染種子、農機具、土壌等のウイルス不活化等防除技術を開発 ・種子、植物体等からの RT-PCR 法および血清学的手法によるウイルス検出技術、および多検体からの検出技術を開発 することを目標とする。 (研究項目) ①宿主範囲等生物学的基礎情報の収集 ②ToBRFV の防除技術の開発 ③ToBRFV の検出技術の開発	・研究計画に沿って概ね順調に進捗し、得られた成果も期待通りのレベルに達していると思料。また、運営チームとの意見交換も適切に実施されている。 ・海外からの侵入を水際で防ぐための技術については、現段階でほぼ目標に到達していると思われるため、それをすり抜けて国内に侵入した場合を想定した生産現場レベルでの早期発見技術と防除技術について、残りの研究期間でよい成果が得られることを期待する。 ・「ToBRFV の検出技術の開発」については、精度の高い PCR 法の他に生産現場や輸入検査現場で簡易かつ一定の精度をもった血清学的手法も望まれており、現在開発中のもの(RIPA 法)の完成をお願いする。 ・植物検疫では、自然感染する宿主植物を検疫の対象としていることから、本課題で探索した宿主範囲について、自然宿主の可能性についても検討いただきたい。 ・「宿主範囲等生物学的基礎情報の収集」では、対照として果実にあそを生じる品種を利用していない、「ToBRFV の検出技術の開発」ではウイルスのタンパク質を検出する ELISA 法とウイルス RNA を検出する RT-PCR の違いに配慮して感染力を評価する検出法となっていない、などやや科学的データとして不十分な点が見受けられた。	A	引き続き運営チームと連携し、継続して研究を実施する。

＜総括評価の説明＞

- A: 研究実施計画どおり、又は計画以上に進捗しており、引き続き運営チームと連携し、継続して研究を実施することが妥当である。
- B: 研究の進捗は遅れているが、一層の努力により研究を実施すれば、研究目標の達成は可能と見込まれる。
- C: 研究の進捗が遅れており、運営チームと協議し、研究実施計画を見直した上で研究を実施することが妥当である。
- D: 研究計画を見直しても目標を達成できる見込みが低いことから、研究課題を中止することが妥当である。